

なぜ

# 「鍼灸」は「効果」があるのか？

## 第2回「神経線維への刺激」

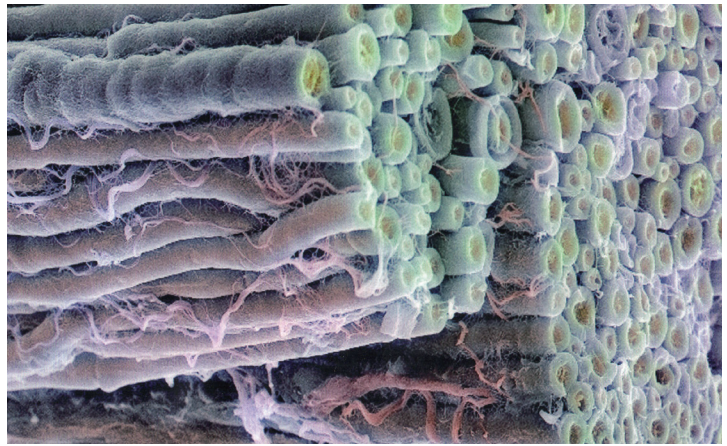
琉球治療院 関 忠雄

そのときは身体の中の神経系の知覚神経線維が通常よりも興奮した状態になっているのです。もし、痛みの原因がヘルニアや脊柱管狭窄症などで持続的に圧迫されているようならば、その圧迫しているものを取り除かなければなりません。

腰が痛い、膝が痛いというとき私たちの身体はどのような状態になっているのでしょうか？

### 1・疼痛時の身体

写真1 神経線維

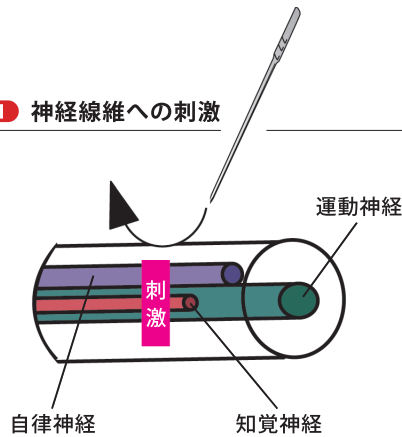


太いのが運動神経、中位が自律神経、細いのが知覚神経

### 2・神経線維への刺激法の発見

私が鍼治療を始めたころは「鍼で神経線維を刺激するだけ」と簡単に軽く考えていたのですが、このような手技はヨーロッパの医学

図1 神経線維への刺激



しかし、神経線維が通常より興奮している状態の神経痛（知覚神経の異常興奮）は、圧迫している刺激の条件を変えなければ回復に向かいません。そのために圧迫している状態の刺激とは別の刺激を加える方法が「鍼による刺激」なのです。  
このように鍼治療は、神経ブロックのように直接的に結合組織内の神経組織に局部麻酔薬を加えるのではなく、単に神経線維の結合組織を刺激するだけなのです。



## 関 忠雄 Tadao Seki

1949年 長野県生まれ  
1973年 中央大学法学部卒業  
1978年 早稲田鍼灸専門学校卒業／倉島宗二師に師事 臨床鍼灸学を研修  
関鍼灸治療室を開設  
2003年 新潟大学医学部第一解剖学教室で末梢神経(自律神経:迷走神経)解剖を研修  
2005年 佐野動物病院にて獣医学を研修  
2006年 名古屋市れもん鍼灸接骨院院長  
2013年 アルゼンチン(F・バレイラ)鍼灸院院長  
2018年 アルゼンチンから帰国  
2019年 琉球治療院勤務

のどこをさがしても見当たりません。学生時代に病理学の先生が「鍼治療はミクロの外科学だ」と言っておられました。そのことが地球の裏側のアルゼンチンで鍼治療を経験して初めて理解できました。

鍼治療は神経ブロックのように半日も寝ていなければならぬようなことはありません。2000年以上も鍼の治療法が生きながらえてきたのは、古代の中国人が危険性の少ない簡易な方法で神経線維を刺激できる手技を見つけたからにほかなりません。

ここで重要なことは、鍼治療は神経線維を切ったり傷つけたりするのではなくあくまでも刺激するということです。

### 3・治療後の反応

しかし、神経線維に刺激を加えるのですから興奮状態が若干変動することは避けられません。刺激の後の感覚は患者さんの体格によって異なります。頑健な体格の人はそのまま回復しますが、虚弱な体格の人は強く刺激を感じるので鍼は合わないと言ってしまう可能性は充分にあります。古来の鍼治療の書物に虚症・実症の表現が多く出てくるのは、古代でもこのような問題で苦しんだ治療家がいいたことを示しています。

身体に加えられた刺激はこのような形で反応を起こすのですが、さらにその後はどうなるのでしょうか？

私たちは現在コンピューターを日常的に使っていますが、コンピューターにデータが溜まりすぎて正常に動かなくなったり、多くのプログラムを同時に起動したりしておかしくなるときのときはどうしますか？ このようなときはコンピューターを「再起動」するという操作を私たちはします。一度コンピューターの電源を切ってそして電源を入れ直し、もう一度データを最初から積み上げていくという動作をすることでコンピューターを正常に戻そうとします。

人体も同様に再起動させることで正常な動作をするようになるのです。人体にとってのコンピューターの再起動に当たるものは「睡眠」です。治療後に痛みが増したと訴える患者さんも、寝て起きたあとに痛みが軽減していることを実感します。

### 4・鍼治療の目的

現在の鍼灸治療は、刺激の後の反応を恐れるあまり神経組織を刺激するという手段を避けようとしています。このため同時に痛みを取るといった鍼治療本来の目的も同時になくなっていると思わざるを得ません。

鍼治療はヨーロッパ医学にはありませんが全く別のものでなく、ヨーロッパ医学の中では神経学の応用分野であるという認識を説明していく必要を特に感じます。